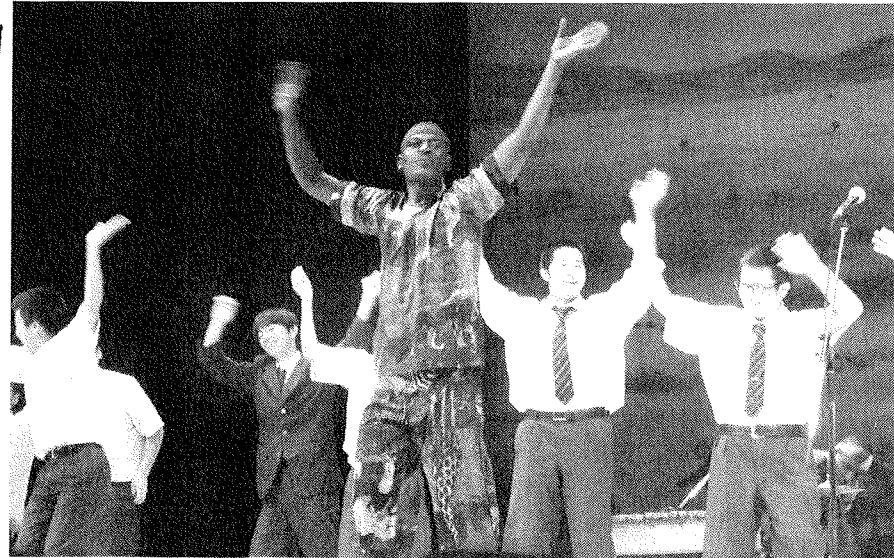


清高ミニタイムス

清高ミニタイムス
北海道清水高等学校
新聞局
発行責任者
泉谷 つばさ

9月9日(月) 5・6時間目に清水町文化センターで芸術鑑賞が行われた。今年「魂の音楽 リアルアフリカ」と題して、ROHOシアターをお招きし、アフリカ音楽の鑑賞が行われた。後半の部では生徒が打楽器やダンスを体験する場面もあった。観客席で演奏したときには、大いに盛り上がった。



Uthamini
芸術鑑賞
san&san

Nafsi Muziki Suluhisha

魂の音楽響き渡る

今回の芸術鑑賞はアフリカの音楽を聞いた。二部構成で行われ、第一部は「歓迎の音楽」「呪術医の音楽」「成人儀礼(男性)の踊り」「マサイ族の結婚の音楽」が披露された。第二部では「平和への祈り」「放牧の時の歌」「ケニア ジャンボコンにちは」が演奏された。「精霊のマスクダンス」では、演奏途中にROHOシアターの4人が観客席に来て、間近で演奏をしたり踊ったりして、生徒達を沸かせた。生徒が打楽器や踊りを体験する場面もあり、多くの生徒がステージに上がり、ROHOシアターの4人と初めてのアフリカ音楽に挑戦した。踊りに挑戦した松尾大輝君(3C)は「初めて踊った。足の音を重視して



→呪術医の音楽を踊る仮面の男
↑染しそつに踊るディクソンセンと生徒達

笑顔で太鼓を叩く佐々木明優君



メンバー紹介
左から...

- ディクソンセン(33)
- ジョーシ(51)
- ファミリーセン(32)
- 伊藤宏子セン
- マコンベセン(32)

ROHOシアター

タンザニア文化を 使命感を胸に 伝える

2002年の5月からタンザニアのテケメという下町で、子供のころから音楽と共に生活してきた若者たちがバンドを結成した。アフリカの伝統音楽を基礎としたオリジナル音楽を目

指し、04年にはモザンビーク・ジンバブエ・マウライ・タンザニア・ザンビアの5か国が参加した国際大会でグランプリを受賞した。ROHOシアターの持つ魅力は、彼らが小さな頃からごく自然に耳にし、踊ってきたNgoma太鼓ダンスがベースになっているところ。05年から日本国内ツアーを行い、好評を博している。「魂の音楽」の意味でROHOシアターに改名し、よりパワーアップしたステ

ージを展開している。リーダーを務めるジョージさんはタンザニアの軍隊で楽器の演奏を務めるほどの実力者で、他の3名はジョージさんを慕ってともに活動している。公演で大切にしていることは、「お客様を楽しませたい」という使命感を持ってステージに立っている」とジョージさんは語る。ファジリさんは当日の会場の雰囲気を感じて演奏しており、マコンベさんはタンザニアの文化を知ってもらえるように演奏している。ディクソンセンは「私たちの演奏の先にご縁ができれば」と願っている。

